

とめたリーフレットを刷新。窓口で配布しているほか、労災が起きた事業者に送付して注意を促している。農家向けの安全講話も実施する意向で、ＪＡと日程を調整している。

帯広労基署の統計によると08年から19年までに起きた301件の農業労災のうち、64％が経験年数5年未満の事故だが、熟練者による事故も後を絶たない。山崎太一安全衛生課長は「労災は不安全な環境と行動が重なると確実に起きる。経験や勘に頼らず基本を忠実に守ってほしい」と呼び掛けている。

新型肺炎 農業実習生入国難しく 中国から 営農影響も

2020年2月6日

新型肺炎の感染拡大に伴い、十勝管内の農業を中心とする中国人技能実習生の受け入れに影響が出始めている。政府は感染が拡大している中国湖北省からの入国を制限する方針で、一部ＪＡでは受け入れスケジュールの変更など対応に迫られている。十勝はベトナム人実習生が多く影響は限定的とされるが、感染拡大により入国制限地域が広がれば、春先の営農に影響が及ぶ可能性もある。

政府は新型肺炎対策として、中国湖北省に過去2週間以内に滞在した外国人らの入国申請を拒否する方針を決めている。この措置を受けて中国観光客のキャンセルが相次ぎ、道内では観光面で深刻な影響を及ぼしている。

技能実習は諸外国の労働者を一定期間受け入れ、各技能を習得してもらう制度。道庁の調べによると道内では業種全体で1万32人（2018年）の実習生を受け入れた。うち中国人は34.5％の3471人に上り、ベトナム（52.1％）に次いで多い。

十勝管内は国別の数字は明らかでないが、18年に599人を受け入れており、「農業」は478人、「建設関連」は63人、「食料品」は39人などとなっている。農業実習生は「ベトナム中心なので影響はない」との声がある一方で、対応を迫られるケースも出てきた。

ＪＡ忠類は3月末、中国湖北省から技能実習生3人を

受け入れる予定だったが、現状では予定通りの受け入れが難しい状況に。2カ所の酪農家で実習する予定だったため、中国以外の実習生を探すのか事態が終息するのを待つのか調整する予定だ。同ＪＡは「こればかりはどうしようもない。まずは受け入れ農家と協議する」と語る。

十勝も含めて技能実習生の窓口となっている札幌南国際事業協同組合（千歳市）によると、根室管内別海町では、中国人実習生が一時帰国後に航空便の運航中止で戻れなくなった事例も出ている。

春先の営農に向けて2～3月は農業実習生の受け入れが多くなることから、担当者は「入国拒否措置の対象地域が広がればさらに影響が出る。（実習生は生産現場の貴重な戦力で）受け入れ農家は入国制限の動向にも神経をとがらせることになる」と話している。